

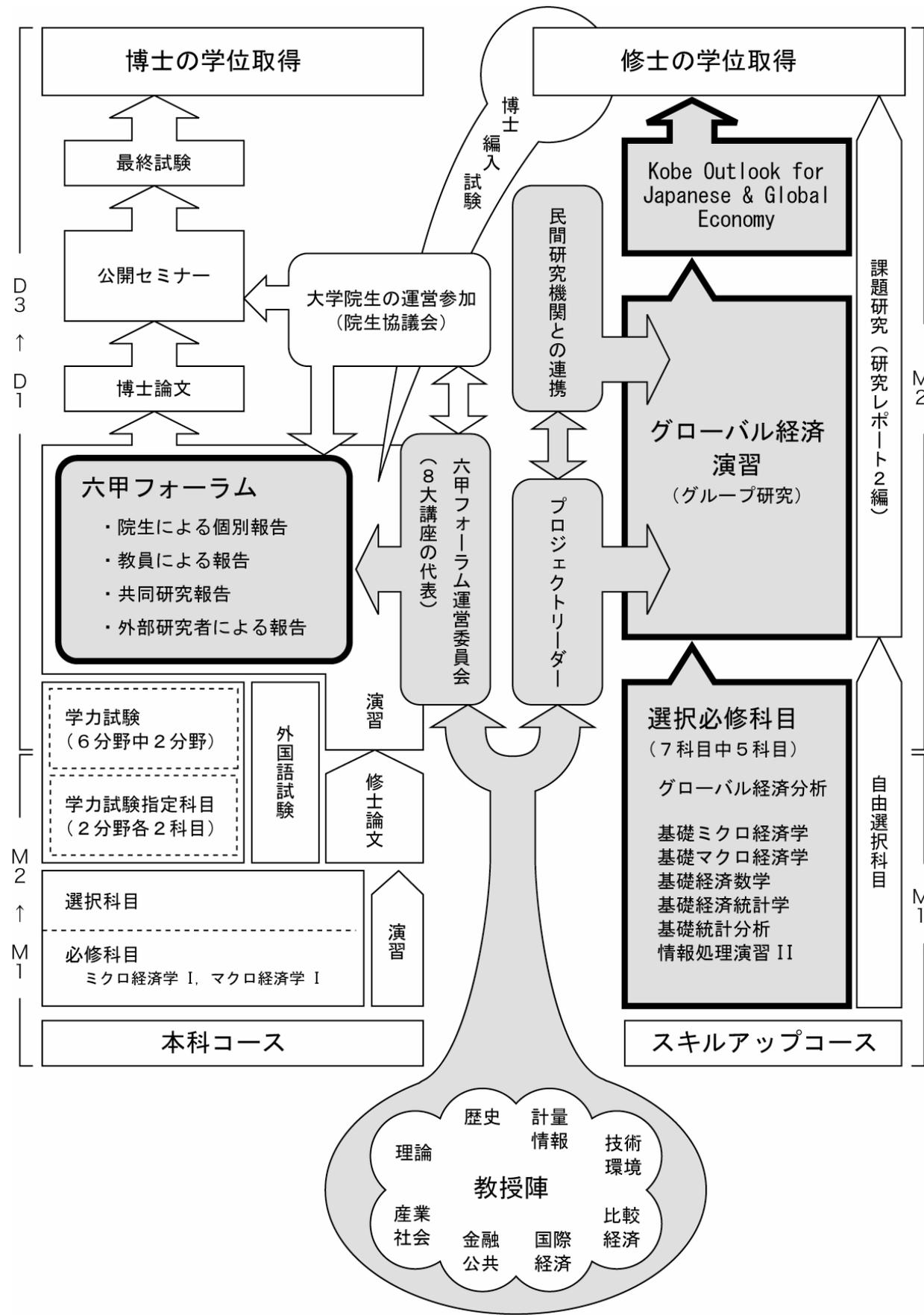
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	神戸大学	整理番号	a019
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	教育組織と手法のRe-bundling(共同研究を軸とする経済学の先端教育)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 経済学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (経済理論、経済政策、計量経済学、日本経済、政策シミュレーション)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 経済学研究科・総合経済政策専攻〔博士前期課程〕 経済学研究科・総合経済政策専攻〔博士後期課程〕		<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 中谷 武
	(その他関連する研究科・専攻名) 経済学研究科・経済システム分析専攻〔博士前期課程〕 経済学研究科・経済システム分析専攻〔博士後期課程〕		
	5. 本事業の全体像 5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について) 神戸大学は教育憲章において「人間性」, 「創造性」, 「国際性」, 「専門性」を培うことを宣言している。とりわけ, 人類の未来を見据えた地域に根ざした高度な国際性豊かな教育研究の実現をめざしている。この実現をはかるために, 神戸大学は「国際交流推進機構」, 「学術研究推進機構」, 「大学教育推進機構」を設置し, 全学として組織的に取り組んでいる。 特に, 学術研究推進機構と大学教育推進機構において, 研究者や大学院生の萌芽的な研究を育成するとともに, 部局横断的な先端研究, 融合研究を可能にする環境作りを進めている。さらに, 萌芽的な研究や教育革新への試みを支援するために, 教育支援機構と連携して, 間接経費を財源とした「神戸大学教育研究活性化支援経費」を設定し, 本学の教育研究の改革を推進しているところである。 本事業は, 多種多様な共同研究を大学院教育の柱として位置づけるものであり, 昨年度の教育研究活性化支援経費による「六甲フォーラム」の実績を発展させた教育プログラムである。21世紀COEプログラムの研究教育拠点, 及びEUIJ関西(EU Institute in Japan, Kansai)の主要担当部局として実績のある経済学研究科が, 本教育プログラムの実現を通じて, 大学院教育の実質化をはかり, 国際的競争力のある研究者を育成することは, 神戸大学にとって重要な課題であると考え, 全学的に支援する。		

機 関 名	神戸大学	整理番号	a019
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)			
<p>経済学研究科は、平成12年度に大学院重点化を実現して以来、定員増と多様化した大学院教育ニーズに応えるべく、複数のコースを設けてきめ細かな大学院教育を行ってきた。</p> <p>研究者養成の本科コースでは、神戸高商以来の伝統を継承しつつ、経済系大学院では日本で最も早い時期に課程博士の学位を認定するなど、時代を先取りしたカリキュラムで多数の研究者を養成してきた。高度専門職業人を養成する専修・社会人コースでは、実社会に直結した実践的な経済学知識の提供に努め、数多くの卒業生を民間企業、シンクタンクなどに送り出してきた。土曜日だけのスクーリングで修士の学位のみならず博士の学位も取得できる社会人コースは、社会人の再教育に適した教育プログラムとして高い評価を受け、このコースで学んだ社会人から、すでに複数名の課程博士が誕生している。</p>			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)			
<p>本計画は、独立あるいは並列的に並んだ旧式の教育モジュール(ここでは一教員、一研究分野をさす)を抜本的に改革し、教育組織と手法のRe-bundlingを通じて、効率的で効果的な教育システムを構築する取組である。ここでいうRe-bundling(再結合)とは、具体的には、博士後期課程学生の複数教員による組織的指導、教員と院生による共同研究の組織化、民間研究機関とのコラボレーションの推進、学生の主体性を引き出すグループ研究を主たる内容としている。旧来の大講座制が陥りがちであった特定担当教員による個別指導に過度に依存する傾向を改め、教育・研究指導をより開放的かつ組織的な形式に刷新する。</p> <p>この目的を達成するため、本科コースでは、個別教員による演習指導を継続しつつ、共同研究・教育のためのワークショップである「六甲フォーラム」を、大学院の研究・教育の柱とする。フォーラムは、演習の一環として行われ、本研究科博士後期課程の院生、教員、外部の研究者が報告し、国内外の研究者や教員と院生との新たな共同研究を促すとともに、複数教員による組織的指導による研究指導の効率化と質の向上をはかる。</p> <p>専修・社会人コースでは、既存の研究指導体制を抜本的に改め、「スキルアップ・コース」を大学院教育の中心に置く。「スキルアップ・コース」は、1年目にコア科目群を体系的に学び、2年目には民間研究機関(日本経済研究センターなど)とのコラボレーションにより、1年目に学んだ実証的手法を応用してグループ研究に従事し、その成果物として「グローバル経済展望(Kobe Outlook for Japanese & Global Economy)」を作成し、発表する。同時にこのコースでは、体系的に統計手法等を教育するスタンダードな教材開発を教員と院生の共同作業で行う。</p> <p>本計画のユニークさは、経済学研究科が築いてきた過去の実績をもとに、共同研究の促進と院生の成績評価を結びつけて博士の学位取得を促進する教育プログラムを構築する点にある。また、民間研究機関との連携を計りつつ、土曜日を中心としたカリキュラム編成で経済予測のための技能を体系的に学ぶことができる点も、これまでの経済系大学院には皆無といってもよい本計画のユニークな点である。このコースの充実には、博士後期課程に進学する学生の量の拡大と質の向上を促し、中長期的には博士の学位取得者数を増加させる効果をあげることも期待できる。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	神戸大学	整理番号	a019
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 631 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 680 1428 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 920 635 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 969 1428 1146" style="list-style-type: none"> ・ これまでに実績のある研究科であり、スキルアップコースと六甲フォーラムという具体的な取組によって若手研究者の支援を図るという目的は明確である。特に、スキルアップコースのグループワークは興味ある試みである。今後、研究者養成の面で、六甲フォーラムに限らず、さらなる実質化に向けた取組がなされることを強く期待する。 			